

優秀賞（岩手県知事賞）

「水の変身」水の役割とは

奥州市立水沢中学校

一年 青木 あおき 縁 ゆかり

みなさんにとって「水」とは何でしょう。ただ使っているものでしょうか。私は、命でもあり家族でもある、そういうものだと考えます。なぜなら、途上国の方たちは綺麗な水を飲むことができない、飲み水が全くないなどの今、深刻な問題として「自然環境」がいちばん大きいからです。水不足により命を落としてしまった人たちも後をたえません。だから水というのは、自然の恵の中でいちばん大事な役割を果たしていると思うのです。その他にも水は私たちが赤ちゃんの頃から使用してきました。お風呂に入るときや粉ミルクを溶かす時など、私にとって水は家族の一員であると改めて認識しました。よく考えてください。水は家族が一つ、一人いなくなったらどうですか。今まで支え合

った一つの柱というものが崩れてしまうのです。私の家では昨年、姉が県外の大学に入学しました。今まで切磋琢磨し合ってきた家族の一人失った気がしたような気がします。水も同じです。私たちが限られた水を使うだけ使うといつかはなくなります。だから、一人一人がどれだけ水に対して感謝をしているか、関心をもっているかをもう一度考えるべきだと思います。

また、水は飲むだけに使用されているではありません。植物の生命を育てたり、物を綺麗にするときに使用したりなど、私たちは様々な場面で水を使っています。最近では自分自身で節水というものを心がけています。水道代をおさえるためというのはもちろん、世界中の人たちが一秒でも十秒でも一分でも、水を出しっぱなしにするなどの行為がなくなれば、一人でも多くの人が助けられると考えます。

題名の中の「水の変身」の意味は、何でしょうか。そして水は別のモノに変身はできるのでしょうか。私は、数えきれないほどたくさんさんのモノに変身している

優秀賞（岩手県知事賞）

ウォーターパワー

盛岡市立下小路中学校

二年 佐藤 奈穂

私の学校の近くを流れている中津川は、とてもきれいな川です。

三年前、私は中津川の水質調査を行いました。実際に中津川へ行って、どのくらい水がきれいなのか調べました。汚い川だと、ヒルや外来種のエビなどがいますが、くんだペットボトルの水にそれらはいませんでした。川では鮭を見ることができ、ペットボトルには、きれいな川だけにいるエビなどが入っていました。私たちの大切な中津川はきれいな川だ、と分かったと同時に、盛岡の誇れる川なのだ、という思いを強く抱きました。

中学校の通学路が川沿いなので、私は毎日中津川の景色を満喫して登校しています。晴れの日、川の水面に雲が映り、鳥たちが元気に戯れ、川のせせらぎが

とても心地よく感じられます。どんよりした曇りの日は、川が少し寂しく感じられますが、川の流れが速いところから懸命に浅瀬に行こうとするカモたちの姿を見ると、「頑張れ」と応援したくなる気持ちと、「今日も平和だな」とほっこりした気持ちが生まれます。

中津川は、四季折々の景色も楽しめます。春は桜が咲き、動物たちが川でくつろぐ姿を垣間見ることができます。そして、川のせせらぎが、新しい学年に進級して緊張している私たちの背中を押してくれるような気がします。夏は、木々の葉が緑に色付き、日の光が水面に反射して、ダイヤモンドのようにキラキラと輝いています。秋は、木の葉が赤や黄色に染まり、鮭たちがうろこを輝かせて川をのぼっていきます。冬は一面雪景色となり、白鳥たちが川の中を楽しそうに泳いでいるのです。一年を通して、川の近くに咲いているたくさん種類の花や、楽しそうに泳いだり獲物を捕らえたりしているカモやサギを見ることができます。私は、そんな中津川の「水」から、毎日パワーをも

らっています。川のせせらぎを聞くと、モヤモヤしていた気持ちが一っと水の流れとともに流れていくような気さえします。カモの親子が必死に川岸まで泳ごうとしているのを見ると、あの親子のように頑張らなくて、と気合が入ります。

その日は、すっきりと晴れた日でした。中津川の景色を見ながら歩いていたら私の目に、岩手山が見えました。まだ頂上に雪が少し残っている岩手山。その手前に美しく咲き誇る八本の桜。そして快晴の空を反射した中津川がありました。この美しい光景から、私は、嫌なこと、心配なこと全てが吹き飛ぶくらいのパワーをもらいました。そして岩手山は、この中津川に多くの恵みをもたらしていると実感しました。

小学校の林間学校で登山をしたとき、山の頂上で、私の人差し指くらいの水路に水がちよろちよろ流れていたことを覚えています。先生はこう言いました。

「こんなに少ない水だけれど、山を下りたら、この水路が川になっているのだよ。だから、ここは始まりの

川なんだ。」

もしかしたら、岩手山の頂上で流れていた川が、中津川にも流れているかもしれません。そして、その水が、植物や動物を元気にし、育んでいるかもしれません。

（水は多くの道を冒険して、たくさんの生命を豊かにしている。素敵だな。）
心からそう思います。

私たちが普段、当たり前に使っている水。水は、植物や動物、私たち人間にエネルギーを与えてくれる、ウォーターパワーを持っています。盛岡を流れている中津川が、ウォーターパワーで植物や動物、私たち人間を豊かにして、ずっときれいな川のまま私たちを見守ってほしいです。そのために、私たち一人ひとりが川を汚さないように心がけ、中津川を愛し、未来へ受け継いでいきたいです。

優秀賞（岩手県知事賞）

命ある水

盛岡中央高等学校附属中学校

三年 澤井 さわい 佳恋 かれん

岩手県には、水の名所が多くある。龍泉洞のような観光スポットだけでなく、大慈清水、青龍水といった江戸時代から守り続けられている歴史ある場所、さらには中津川のように私自身の生活にも大きく関わっている場所まで、県内をみれば数えきれないほどだ。それと同じくらい、岩手県には全国的にも名の知れた文学者が多くいる。その中の一人として有名なのは宮沢賢治だろう。絵本や国語の教科書などで彼に出会った方も多いのではないだろうか。私自身も幼い頃から彼の童話や詩と親しみ、昨年は学校で宮沢賢治学習をしたことで、より彼の生涯や作品について深い知識を得ることができた。そんな岩手県で暮らしていると、ふと「あの先人もこの景色をみていたのだろうか」と考えることがある。例えば、滝沢市の柳沢湧口は宮沢賢

治の詩集「春と修羅」の中で「あの柳沢の湧水」と詠われていることから、時代は違えど私たちのよく知る先人と同じ景色を見ている可能性も当然有り得るのだ。宮沢賢治は「銀河鉄道の夜」や「雨ニモマケズ」など沢山の名作を残しているが、「やまなし」をはじめ、水に関わる作品も数多くある。今回私が「水」というテーマと深く向き合うために参考にした作品は「青森挽歌」という詩だ。この詩は賢治の妹であるトシの死を詠ったものだが、この詩から「水」について考えたことがある。

それは「水」は私たち人間の生き方と、とても似ているということだ。詩の中で彼は、碧い寂かな湖水の面を見て「天のる璃の地面と知つて／こころわなき紐になつてながれる空の楽音」と表現している。ここには水の神秘的な様子がすべて表れているように感じた。水は山から川、海へ流れ、気体となって天に昇り、やがてまた雨として大地に降り注ぐ壮大な循環の中にある。その水たちの宿命は輪廻転生のようであり、私

たちが持つ仏教的思想がそのまま形となって表れているように思える。しかし、私たちが本当に考えなければいけないのはここからだと感じた。水は循環する。水は一度目に見えない状態になっても、必ず元に戻ることができる、本当にそうだろうか。確かに、自然な流れでいけばその法則が正しいものであることは間違いないだろう。だが、例外として当てはまるのは人間がその流れを壊してしまった場合だ。例えば東北最大の河川、北上川。北上川は現在、水の汚れの程度を示す水質階級はⅠと最もきれいな階級に分類され、非常に多くの生物が生息している。一方で、つい四十年前の北上川の姿は今とは全く別の川にも思えるほど悲惨な光景であった。その原因は松尾鉦山から流れた坑廃水。当時の人々は生活にかかせない貴重な水資源を自らの手で破壊してしまったのだ。もちろん意図してその結果になったのではない。しかし、ここでもう一度思い出してほしいことがある。それは、宮沢賢治の作品から感じた「水も私たちが似たような運命をたどつ

ている」ということ。それはつまり、水と人間の命の価値は対等ということであると考えた。水の運命を変えてしまうということは水の人生そのものを狂わせてしまっていることと同義ではないだろうか。しかも、その結果はやがて私たちに返ってくる。これらのことを踏まえると、「水」という存在がどれだけ貴重であるかがよく分かるだろう。

水の無い生活を一度でも想像したことはあるだろうか。私には到底考えられない。川も湖も海も無い地球。それは果たして地球なのだろうか。雨が降らないということは虹を見ることもない。そんな人生は楽しいのだろうか。水が生きているから私たちも生きている。水は私たちの生きがいをつくっている。かつて先人たちが見た岩手の景色を守るため、水への感謝を忘れずに生活していきたい。

優秀賞（岩手県知事賞）

ウンベの責任

久慈市立宇部中学校

二年 滝澤たきさわ 光来きらら

宇部中学校から歩いて十分ほどのところに「福来」という造り酒屋がある。調べてみると、創業は明治四十年で、歴史と伝統のある清酒造店であることが分かった。古くから地元で根ざして愛され続けた福来のお酒の秘訣は、宇部地区の綺麗な水にあると私は考えている。

そもそも酒造に欠かせない米は、豊かな水に恵まれた土地でなくては育たない。福来では、米の出来をベテランのプロが見極めているそうだ。ササニシキ、かけはしなど県産のうるち米などを使用しており、地元かけはしを百パーセント使用した純米酒を仕込んだこともある。何より仕込みに重要な水は、宇部小学校の校歌の歌詞にも登場する小倉山を源流とするやわらかい地下水を使用している。福来の酒は、宇部の優れた

水の上に成り立っているのだ。地下水の源流となっている小倉山は、春になると子供たちが登ることもある、地域にとっては身近で馴染み深い山である。

私は小学四年生の頃、総合の授業で宇部川の水生生物調査を行った。ナミウズムシ、サワガニ、ナガレトビケラなど、美しい水にしか生息しない生物が沢山見つかり、私は興奮と喜びを抑えられなかった。自分たちの住む宇部は、自然が豊かで水が綺麗で、多種多様な生物が暮らしているのだ。これほど誇れるものが宇部には沢山あると、その時初めて知った私は、水と自然が今まで以上に好きになった。

私の家は、よその家で断水が起こっていても断水にならないことがある。ある時、それを疑問に思い両親に尋ねると、「おうちは井戸水を利用しているから断水にならないんだよ。」と教えてくれた。また、小学校六年生の時、私は級友と共に許可を受け琥珀を採りに行ったことがあった。その道中に湧水があり、私は母の許可を得てそれを飲んでみたことがある。一口含んで

「美味しい」と思った。学校で飲む水道水やペットボトル飲料水は、いくぶん苦く、身体の中に少しばかり硬い感覚が残る。だが、この湧き水は溶けるのだ。口内に甘みが広がり、喉を通っていく水の優しさが全身を包み込むようだった。

そういえば、久慈の琥珀も水の中に樹液が落ちて地中に堆積することから始まると聞いたことがある。豊かな水や海と自然が織りなし、長い年月を経て偶然私の手元に琥珀として相まみえたのか。そう思うとあの琥珀の欠片も、不思議な水の縁のように思え、愛着がわいてくる。

しかし、家庭などでの排水が増えたり、ごみのポイ捨てが増えたりすると、美しく清らかだった水も汚れてしまいかねない。ゆえに公害は起こるのだ。宇部川の水が汚れ始めていることが分かったのは、皮肉にも、その後も継続している宇部小学校の水生生物の調査結果からだ。以前には見られなかった汚れた水に生息するタニシなどの生物の数が増え、綺麗な水に生息する

生物の数が減ってきていた。水が汚れると私も困る。近頃、よく体調を崩しがちな私は、毎日三回薬を飲んでいいる。だが、水の性質や状態が悪化すると薬の効果が薄れたり、逆に体調が悪化したりする。水は生きるために必要だ。それだけではない。地球の環境保全に欠かせない重要な資源のはずだ。これは、近年増加している地球規模の豪雨や水不足、異常気象等にも関連した、水の惑星地球からの警鐘ではないだろうか。

宇部地区の地名の由来は、アイヌ語の「ウンベ」。これは「綺麗な水の湧くところ」という意味だ。昔から変わらず水の美しい宇部の水がもし汚れてしまおうとしたら、それは地球の伝統を崩すことにならないだろうか。ここで生きていくからには水を愛し、継いで行く責任を持つ必要がある。なぜなら水は、宇部にとって最も大切なものなのだから。

優秀賞（岩手県知事賞）

この水を未来へ

奥州市立水沢中学校

二年

竹花

紀慧

「地球の面積のおよそ七割が海である。」「全ての生物は、最初海から誕生した。」「地球は青かった。」「地球は水の惑星。」「このように、地球と水の関係を表す言葉を今までたくさん目にしてきた。その水は植物を育て、命を育む。僕は、毎日欠かさずその食べ物を食べ、水を飲む。さらに、夏に海水浴をしたり、プールで泳いだり、冬にスキーをしたりできるのは水のあるおかげだ。毎日楽しく過ごすことができるのは水があるからこそ。暮らしを支えているのは水なのだ」と改めて思う。

水が豊富な印象のある地球。しかし、地球の水の約九十八パーセントは海水だ。そのままでは生活に利用することはできない。使いやすい状態の水は、わずかに〇・〇一パーセントという。さらに、その水にしても、

そのまま水道水として使うことはできない。浄水場でろ過したり消毒したりして僕たちのもとに届く。下水もそのままでは自然に戻すことはできない。下水処理場で汚れを除き、消毒され、川に戻されている。蛇口をひねればいつでもきれいな水が出るのが当たり前で、それまで考えたこともなかった。

また、地球上の水の総量は、十四億立方キロメートルで、四十億年前から変わらないそうだ。そして、新たに作り出すことはできないという。大昔から、水、雲、雨、雪、氷と状態を変えながら水は循環をしているのだ。

これらのことを学んだ時、水は限りある大切な資源なのだと考えた。

僕の住む胆沢平野は米どころだ。二千年以上前にも人が住んでいたことが続日本紀に記されている。また、遺跡もたくさんあり、石包丁などが発掘され、その頃から米を作っていたことが分かっている。しかし、繰り返し水不足に悩まされ、干ばつもあり、限られた水

を巡って争いもあったそう。大切な水であり、命に直結するからこそ血を流す争いも起こったのだと思う。その後、円筒分水工によって寿安堰と茂井羅堰に公平に分けられ、争いもなくなったとのことだ。二〇一三年には、それまでの石淵ダムの三十倍もの体積の胆沢ダムも造られ、より安定した水量で大地を潤している。先人の努力に感謝だ。

だが、水は時に牙をむく。台風による洪水、地殻変動による津波。度々多くの人々の命を奪ってきた。しかし、水なしでは、植物も動物も生きてはいけない。かといって、自然災害を防ぐ方法は今のところない。だからこそ、僕たちはこの二つの側面を理解し、恩恵を受けるだけではなく、また、水をコントロールしようと思うのでもなく、水のために何ができるか考え、共存していく方法を考えていくことが大切だと思っている。

岩手県の岩手町から僕たちの町を通り、宮城県の上巻市に流れる大きな川、北上川。昔から豊富な水量が

米、水運などで生活を支えてきた。今も清流をたたえ、農業、工業、生活に利用され、発展を支えている。しかし、この川も強酸性抗廃水による水質汚濁で、魚類も生息できない「死んだ川」と呼ばれた時があったそう。小学生の頃、そして昨年、近くの川の水の水質調査をした。きれいな川と分類されたが、これがずっと続いていく保障はどこにもないのだと思った。

水は、僕たちの生活とは切っても切り離せない存在であり、生活だけでなく命そのものを支えている。しかし、水は限りある資源だ。だから、節水をしたり、水を汚さない工夫をしたり、みんなが身近なところで水を大切にすることが大切なのだと思う。さらに、水についてもっと知ることが大切だと思う。そうすることで、水との共存を図っていくことができ、水とのよりよい関係を創っていくのではないかと思っている。四十億年も巡り続け、僕たちと今を共にする水を、未来へ届けたいから。

佳作 (岩手県知事賞)

考えるきつかけを

矢巾町立矢巾北中学校

三年 荒屋敷 大翔

生活に欠かせない水は、ときに私達に牙をむく。

異常気象だらけの近年。その異常気象の一つである豪雨が私達の住む地域を襲ったのは平成二十五年のこと。その激しさは、私達が未だかつて経験したことのないものだった。秋田県側で発生した雷雲が次々に流れこんで雨は降り続き、雨量は五時間で二百七十二ミリを記録。流木が橋に詰まって脇からあふれ出た川の水が住宅地に流入。多くの住宅が床上、床下浸水などの多くの被害を受けることとなった。これは、私が自分の両親から聞いた話である。当時私は小学校入学前であり記憶がなく、両親から何度もこの話を聞き、水の恐ろしさを痛感した。

多くの人の命を奪っていく豪雨だが、雨が降らないと生活していけない人もいる。それが農家だ。作物は

雨が降らないと育たない。雨量が少ない地域はなおさらだ。農家にとって、雨は恵みである。小学校の授業で田植えをしたことがあるだろう。みんな協力して苗を植えても、稲にならなければ元も子もない。それほど雨は重要なのだ。

しかし、そんな農家にとっての恵みである雨や水は私達の生死を分ける。分かりやすい例で説明しよう。「無人島に何か一つ持っていていけるとしたら、皆さんは何を持っていきますか？」

この質問は誰もが一度は聞かれたことがあるだろう。先生がこの質問をすることが多く感じる。すると必ずと言っていいほど返ってくる生徒の答えは、

「水！」

である。ではなぜみんなそう答えられるのか。それは水を飲まないと死んでしまう、という知識があるからだ。今時代、サバイバル番組も放送されているが、その中でも水は重要視されている。しかし、そんな人にとって大切な水を当たり前前に飲むことができない人

も世界には沢山いることを知っているだろうか。これは知らない人の割合が多いだろう。世界で当たり前前に水を飲めていない人は、約二十億人にのぼる。——ここで一つ、私にはふと疑問が浮かんた。

なぜこの人数を知らない人が多いのか。この数は受け流してしまえばそれまでだが、これは深く考えなければならぬ数字である。

なぜ自分の命に関わる知識しか持ち合わせていないのか。簡単だ。自分に関係ないと捉えている人が多いからだ。それ以外に他ない。私達は蛇口を捻れば水がでるのが当たり前でも、その人達からすれば当たり前のことではないのである。

二〇一一年三月十一日、東日本大震災が発生した。

その時、かろうじて生き延びられた人は水の大切さを痛いほど思い知らされただろう。当たり前前に生活出来ている私達だって、いつその生活が奪われるかも分からない。コロナだってそうだ。思うように活動出来なかったり、学校に行けなかったり、その大切さは十分

理解した。でもコロナがなければ、日常の大切さを考える機会は少なかったに違いない。そして、いつ起きてもおかしくないと言われ続けている南海トラフ巨大地震。いつ東日本大震災のような状況に陥るか分からない状況で私達は生活していることに気付いているだろうか。今この作文を書いている瞬間だってそうだ。

豪雨や震災、ときに私達に牙をむく水。でも水は私達の生活に欠かせないものだ。そんな、自分の生活に関わる重要なことでも、些細なことでも良い。この作文を読むことで、水に関する知識をつけたり、他人事と思わずに水について深く考えられるきっかけをつくる事が出来れば、と思う。

佳作（岩手県知事賞）

水に支えられている

盛岡市立乙部中学校

三年

大志田 おおした

湖葉 このは

ふと改まり、水についてよく考えたことはありませんか。喉が乾いた時に飲む水やシャワーやお風呂で使う水。手洗いうがいをする時や料理、私たちが普段食べたりしている物にも水は含まれています。一日に何度も水を使用していますよね。そんな身近な存在の水は、果たして無限に使用できるのでしょうか。

私たちの住んでいる日本には、水道水と言い、そのまま飲むことができる水がありますよね。しかし、外国の水道水は浄水設備があまり整っておらず、滅菌が不十分なので、飲用するのは衛生上良くないと言われておりスーパーやコンビニに売っている水を買って飲用している人がほとんどなんです。そして、水道の設備がない暮らしをしている人は世界で約二十二億人居ると言われています。これらの問題は全てどんなことが

原因で起きているのか。その理由としてまず川や海の「汚水」という事があげられます。「汚水」の原因として、工場から出る排水、また台所やお風呂、トイレそして洗濯機などの日常生活の中から出てくる生活排水があります。昔は工場から出る排水、産業排水が主原因でしたが、工場などに対する規制が強化され、今日では生活排水の汚れが「汚水」の大きな原因になってしまっているのです。今後のために、川や海を守るために、生活の中で簡単に私たちにできることがあります。例えば、食事や飲み物は必要な分だけ作る。飲み物は飲みきれぬ分注ぐ。野菜の切りくずなどの小さなゴミを水道に流さない。食器を洗う時に油を水道に流さないように油汚れなどをよくふき取ってから洗う。この他にも、もつとたくさん私たちにできることがあるんです。すごく小さなことに思えるけれど実はすごく大切なことなんです。思い出した時でもいいのでやってみましょう。また汚水の他にも「海洋プラスチックゴミ問題」という問題もあります。肉や魚などは自

然にあつたものです。なので時間がたてば自然にかえっていきます。しかし、プラスチックは人が作り出したものなので、完全になくなるといふ事はありません。ウミガメなどの海洋生物はプラスチックのごみを誤食してしまいます。プラスチックで満たされて本当のエサが食べられなくなり、栄養が不足してしまったり、エサと間違えてレジ袋やビニール袋を食べてしまうなどさまざまな被害があります。そんなプラスチックのごみを削減するにはリサイクルやリユース、リデュースをしてごみを減らすことが一番身近な取り組みだと思います。リターナブル容器の製品を選んだり、資源ごみの分別回収やリサイクル製品を利用してみるだけで、少しずつプラスチックごみを削減できると思います。削減したことにより少しずつ「海洋プラスチックごみ問題」も無くなると思います。

水は無限にある訳じゃありません。

私たちは毎日を水道水を使用できています。飲むことができます。けれども、安全な水ではないから飲むこ

とができない、それどころか使用さえもできない。そんな人もこの世界に何万人と居るのが現実です。だから無限にある訳じゃないんです。少しでも多く安全な水をたくさんの方が利用できるようにするためには、節水を心がけたり、リサイクルをしてみたり、ごみのポイ捨てをしないようにしたりなど、誰でもできるようなことがすごく大事だと思います。そして少しでも早く水の問題がなくなるように取り組むのが大切だと思います。

私は今回の作文でとても身近な水についてじっくり考えることができました。役に立つかわからないような小さなことも皆が協力していけばとても役に立つことなんだと思いました。節水やリサイクルなどについて意識してみようと思いました。そして、今私が水を利用できていることに感謝します。

佳作 (岩手県知事賞)

水が支える世界

盛岡中央高等学校附属中学校

三年 神山 かみやま ひなた

SDGsのゴール六、「安全な水とトイレを世界中に」を知っていますか？最近、SDGsテレビやインターネットなどで多く耳にするとおもいます。

SDGsとは、持続的可能な開発目標です。このゴール六を具体的に説明すると、「安全な水」は「安全で安価な飲料水」のことで、「安全なトイレ（衛生環境）」とは、「誰もが排出に関して適切な処理ができる下水処理衛生施設」のことです。

二千年代に入り、安全な水の確保が大きく改善されましたが、今でも世界では、約二十億人が安全に管理された水を使用できず、また世界で約四十億人が安全に管理されたトイレ（衛生環境）を使用できていないのが現状です。安全に管理された衛生サービスを利用できないことで、下痢症で命を落とす子どもたちが多

くいます。

安全な水にアクセスできない原因の一つに水不足が挙げられます。世界人口の増加により、二人に一人が水不足に直面すると言われていています。そして、穀物の栽培や生産には大量の水を必要とするため、水不足になると、食糧危機を招くことがあります。水不足の影響を他に挙げると、開発途上国では水くみを行う子どもたちが学校に行けない、女性が社会で働けなくなってしまうなどの状況が起きています。つまり、水不足は飲み水の問題ではなく、多くの問題にも影響を与えています。

そんな水不足の原因が主に三つあります。一つ目は、水を使い過ぎていることです。世界の人口は、どんどん増えてきているので、全体の水の消費量が増えてしまっているのは仕方ないことだと思いますが、そのままいくと水不足はより深刻化していきます。二つ目は、気候変動です。気候変動は、地球温暖化の影響で起こっていて、降水量が異常に減ったり増えたりしています。

三つ目は、水源が守られていないことです。都市開発のための森林伐採によって水を蓄積していた森が破壊され、水源も破壊されます。他にも、生活排水や工業排水が河川や海に流れ、使えるはずだった水が使えなくなってしまうです。

こうしてみると、安全な水に世界中がアクセスできない原因、水不足の原因などが連鎖されていて、どれだけ水が生活に必要不可欠で、水に支えられているかが分かると思います。

自分たちにできることは、料理、歯磨き、トイレ、お風呂や洗濯での水を最低限に抑えるよう心掛けることです。シャンプーや洗剤などを使いすぎないこと、油のついた食器などは洗う前に紙でふき取るなど工夫をすればもっと対策できると思います。

また、この問題がいい方向に進み、目標を達成するためには、まずこの実態を多くの人に知ってもらおうことだと思います。なぜなら、この実態を知ること、少しでも一人ひとりがその問題と向き合い意識するこ

とにつながり、目標達成への大きな一歩になると思っています。そして、その問題について話し合うことができたり、行動に移したりできたら、より良い方向に進むと思います。全ての人が安全な水を利用できるように、自分たちができることから対策を始めていきたいと思います。

佳作 (岩手県知事賞)

水と共に生きる

花巻市立湯口中学校

三年 佐々木 沙香

私の住む花巻市湯口地区には、「豊沢川」という川が流れている。

その水源近くから採水された水は「奥州山脈の天然水」として売られているほどのきれいな水だ。そんな豊沢川、水のある風景は心をいやしてくれる。

しかし、水はときに私達を恐怖へと導く。大雨や洪水、そして津波。生きていくために必要な水はときに簡単に命を奪ってしまう。

東日本大震災。当時私は三歳でほとんど何もおぼえていない。内陸に住んでいるので私達の地域は津波への被害はなかったものの、テレビで見た津波の映像はあまりにも恐ろしく見ていられないものだった。

私達は四月の修学旅行で、津波の被害を受けた地域に足を運び、語り部さん、ガイドさんのそれぞれ違つ

た胸の内を語ってもらった。その言葉の重みが伝わりとても心が痛かった。

他にも被災した建物や復興に向けて新たに建てた建物など沢山の価値あるものをこの目にし、改めて被害の大きさを知った。沢山のものを飲み込んだ津波。水は私達に牙を剥いたのだ。

それでも私達は水がないと生きていけない。東日本大震災のことをさらに詳しく調べていると、避難生活をしている際、水の確保に一番困ったという記事が目に入った。

水がないことによりトイレやお風呂にも入れない。洗濯はできない。だからといって水分補給を怠れば、あつという間に水分不足の状態に陥ってしまう。体重の約二パーセントの水分が失われただけで、喉の渇き、食欲低下などが現れ約六パーセントまで及ぶと頭痛やめまいなどの症状に襲われる。さらに十パーセントまで失われると筋肉の痙攣、意識障害、腎不全など重篤な状態に至る可能性があるという。

知らなかった。人の体の半分は水でできていると聞いたことはあるが、水不足がここまで体に影響を与えるととは。

極度の緊張状態が続く災害直後は、疲労やストレスの蓄積により誰もが体調を崩しやすい。さらに、水がないと不安に陥り、余計に体調を崩しかねないという。

このようなことを少しでも軽減するためには、普段食べているもの、飲んでいるものを多めに買い置きし、なくなったら新たに補充する「ローリングストック法」などや限られた備蓄水を無駄なく使う節水術などを使い、何ごとにもあらかじめ備えることの大切さがよく分かった。

東日本大震災から十一年。復興について学び水のことを調べてみたことで、水の怖さ、水の大切さについて深く考えることができた。

津波を受けた地域では、それぞれの地域での決まりごとを決め、日々避難訓練をし、明るい未来へ向けて一歩ずつ前を向いて進んでいるように見えた。もう二

度と沢山の命が失われないようにするために。

私は思った。なぜ沢山の命をうばった海のそばに住み続けるのか。離れようとは思わないのか。

でもそんなことは無かった。あるガイドさんは言った。それでも故郷が好きだから。海が好きだからと。

海が怖い。水が怖い、水はときに恐怖へと導く。でも海はそれ以上に私達の生活をより豊かにし、潤いをもたらしてくれる。海以外にも、川のせせらぎ、静かに水をたたえる湖、農業に欠かせないため池。そしてきれいな水のある美しい自然の風景。私達人類、いやすべての生き物達は、水に支えられ、水と共に生きていく。

しっかりと備えて対策をしていればきっと私達はどんな水の恐怖だって乗り越えていける。そして私達を支えている水に毎日感謝し、これからも水と共に生きていきたい。

佳作
(岩手県知事賞)

笑顔で暮らせる世界

矢巾町立矢巾北中学校

三年 田島たじま 颯大そうた

私は家の米とぎ担当だ。毎日米を洗い炊飯器のボタンを押す。米をとぐとき、水が米を運びながら私の指の間を通っていく。その感触が心地よく、毎日楽しく働いている。

ある時、宅配便で米が届いた。これは青森で暮らす祖母が定期的に送ってくれるものだ。祖母に感謝し、袋に入った米を米びつに移す。袋から流れていく米を眺めていると、ふと昔の思い出が頭をよぎった。保育園で田植えのイベントがあったとき、興味本位で稲穂をつぶしたことがある。すると出てきたのは固形ではなく白い液体だった。後で「これは後に乾燥させて固形にするのだよ」ということを母から聞いたことを覚えていた。米が液体なのだ。私には新鮮な感覚だった。そう考えてみると、元は水から出来ている物を水で

洗うだなんて不思議だと思えてきた。米はどうやって出来ているのか。そのとき水はどう役立っているのか。米の袋を見ていると再び祖母を思い出した。聞けば何か分かるかもしれない、久し振りに祖母に電話をかけてみた。

「あ、もしもしおばあちゃん、元気？ 颯大だけど、水のことについて聞きたいんだけど。」

『いいよー。』

こうして米の出来方などについて知ることは、出来た。だが話を聞くなかで一際興味を引く話があった。米を作る水をどこから持ってきているのか、ということである。

『家の近くに貯水してる場所があるでしょ。そういうのが色んな所にあつてこの地域はコレ、みたいなのが決まってるの。あとは基本的には川の水を引っぱってくる感じだね。』

今までの話は個人的な話だったが、地域でまとまって米を育てる話だということに興味を引かれた。

「昔の方はどうだったの。」

今の話を聞けたので、昔はどうだったのか知りたくなかった。

『今はもうそういうことは無くなったけど、昔は水の場所を巡ってケンカとかもあったらしいよ。水路のはじつことかはあまり水がこないんだと。だからわざわざ遠くまで行って水を運ばなきゃいけなかったからさ。』

そう言われて、気づいた。これは昔の話などではなく、今も起きていることなんだ。この地球のどこかでは深刻な水不足に悩まされ、ケンカに、奪い合いをし、戦争に発展していく。このような現状を絶対に許してはならないし、食い止めなくてはならない。水はそれほど大切なものなのだ。

水を巡って争いが起きているが、水は人に縁を作ってくれるものもあると思う。現に私も水を通して祖母と話し、また一つ新しいつながりが生まれた。又、私が毎日食べている物は、水を介して作られている。

米もありがたいものだが、それだけではない。私の体を作る大切なものすべてに水は必要なのだ。こういった水を通した人と人とのつながりをもっと増やせば、争いは無くなっていくのではないだろうか。これが平和への第一歩へとつながっていくのだ。私たちが、世界中の人が、おばあちゃんが、笑顔で暮らせる世界を作るため水の大切さを家族とも話し合おうと思う。祖母の思いの込められた米は、水によって作られている。私達人間の体を作るものはすべて水によって作られていると言っても過言ではない。そのように大切な水を争ったりするのではなく、つながりを作るものとして私は大切にしていきたい。